

山正ニュース

株式会社 山 正		
本社・緑化部	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4468
岐阜営業所	岐阜市市橋4-5-15	Tel <058>271-4466
可児営業所	可児市川合塚越345-1	Tel <0574>62-5228
富山営業所	富山県射水市大江207-1	Tel <0766>55-3882
飛騨営業所	高山国府町857-2	Tel <0577>72-4466

2014年12月号(通巻67号)

§ 1 飛騨営業所で初の展示商談会開催

～140名を超える来場者を得て盛大に開催、
山正の営業活動に対する理解深まる！～

去る12月12日に弊社飛騨営業所は高山市問屋町のコンベンションホール「マウントエース」において、初の展示商談会を開催しました。

当日はあいにくの肌寒い日になったにもかかわらず、140名を超えるお客様にお出でいただき、活気あふれる展示会になりました。



ブースでの用品説明



タフパイプの強度試験



病害虫についての講演

展示商談会は、同ホール2階の会場において、協力をいただいた各社の商品説明ブースを設置し、担当者が商品のPRをした後お客様の質問に応じていただく方法で午前10時から午後3時ごろまで実施されました。また、ブースで紹介しきれない商品については、別に商品紹介コーナーを設けて陳列し、随時お客様に見ていただくようにいたしました。

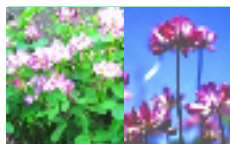
当日のイベントとして午前11時からと午後2時からの2回、渡辺パイプ様によるタフパイプの強度試験を実施したほか、午前11時30分から12時まで弊社の名畑技術顧問による「病害虫の発生生態からみた防除対応策」の講演を行いました。また、講演後、鷺見係長が飛騨地域のトマトを中心にした「新規薬剤」を紹介いたしました。

参加していただいたお客様からは、来年からもこのような催しを開催し、新しい資材や技術の紹介をしてほしいという意見がたくさん寄せられ、好評かつ盛会のうちに終了し、来年につながる展示商談会となりました。

商品説明ブースの設置
(株) クロサキシード
昭和パックス (株)
丸善薬品産業 (株)
日新商事 (株) JXB 日鉱日石エネル
ピースピー (株)
渡辺パイプ (株)
小泉製麻 (株)
(株) わかば
丸石 (株)
カネコ種苗 (株)
モリオカ (株) ニチモウ (株)
日新化学工業 (株)
(株) 山 正

上記各社は商品紹介コーナーにも出品

スマリン農産加工 (株) は商品紹介コーナーのみに出品



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§ 2 今年度稲作の作柄概況

～岐阜 99・富山 101 の平年並みに落ち着くも、
価格下落傾向に歯止めかからず経営への影響懸念！～

農林水産省は10月30日、ほぼ今年度の確定値となる水稻の作況指数を公表した。それによると、全国の作況指数は101の平年並み、予想収穫量は788万5000トンとなっている。全国的には東日本が「良～やや良」、中央部が「平年並み」、西日本が「やや不良～不良」となり、弊社管内では岐阜が99、富山が101でいずれも「平年並み」に落ち着いた。

しかし、農水省が取引の参考として公表している米の出荷業者（全農など）と卸売業者の相対取引価格は、9月の平均で60キログラム当たり1万2481円にとどまり、前年同月比で16.1%も下落するなど、価格の下落傾向に歯止めがかかっておらず、厳しい状況が続いている。

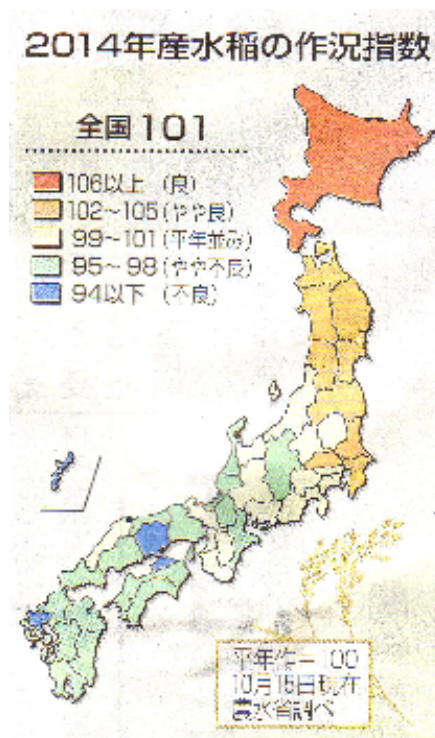
県別	地帯別	指数(予想収量 kg)	県全体の予想収量	主食用水稻作付け面積
岐阜	東濃	99 (513)	116,200トン	24,100ha
	中濃	98 (489)		
	西南濃	99 (462)		
	全域	99 (482)		
富山	全域	101 (543)	193,900トン	35,700ha
全国		101 (536)	788万5000トン	147万4000ha

(農水省ホームページから)

農水省によれば、今年の作況を左右した大きな要因は、田植え期以降の好天でもみ数がやや多かったものの、8月以降の日照不足でもみの中のコメが育たず、結果として平年並みになったところが多かったものとされている。また、収穫されても農家が出荷するために選別する1.8～1.9mmの篩目の下に落ちてしまう未成熟なコメの混入割合は、農水省のサンプル調査によると全国で6.4%にも及んでおり、実質的な作況は100をかなり下回るものとみられている。

気になるのは需給状況と価格の動向であるが、全国の予想収量788万5000トンに対し、出荷できない未成熟なコメは50万トン（例年は30万トン程度）となる可能性があり、738万5000トン程度の新米が供給されるものと思われる。この新米に民間の在庫量209万トン（平成26年6月末；農水省）を加えた947万5000トン程度のコメが市場に出回るものと予想され、未成熟なコメによる若干の供給減の要因があるものの、今後とも供給過剰基調に変わりがなく、価格の下落傾向に歯止めがかかりにくい状況となっている。

農家のみなさんは年末を迎え、生産資材の決済をしなければならず、年が明ければ待たなしで新たな営農を開始するための資金需要が生じることになりますが、平成14年産米の収入減少影響緩和対策（いわゆるナラシ対策）では担い手や認定農業者に対して、農水省の試算で60キロ当たり1,350円程度が補填される（平成14年度に限っての特例措置として一般の兼業農家にも506円補填）ことになっており、制度を最大限活用した営農の継続に期待したいと思います。



(北日本新聞10月31日による)

- § 1 飛騨営業所で初の展示商談会開催
～140名を超える来場者を得て盛大に開催、
山正の営業活動に対する理解深まる！～ (名畑技術顧問) 1 ページ
- § 2 今年度稲作の作況概況
～岐阜 99 富山 101 の平年並みに落ちつくも、
価格下落傾向に歯止めかからず経営への影響懸念！ (名畑技術顧問) 2 ページ